



カプラプ・ナモイ



momishin

はじまり

ここに力がある

力の名はカブラブ・ナモイ

カブラブ・ナモイは無限なり

カブラブ・ナモイは不明なり

カブラブ・ナモイは浪漫なり

手にした者はかつてなく

目にした者もかつてない

それでもあるさ カブラブ・ナモイ

あることだけは知っている

なぜにわかるか カブラブ・ナモイ

信じるココロが知っている

カブラブ・ナモイ カブラブ・ナモイ

飽きもせず呼ばれるその名にびっくり

カブラブ・ナモイ カブラブ・ナモイ

なにもわからず生きるヒトにぴったり

いくら探せど出てこない

倒れて伏せてくたばって

ジジイもマゴも土になる

時間が経てばヒトも立つ

ひとりの勇者が現れた

勇気ある者の名はパベルナツソ

彼の勇気を誰もが認める

勇気を持って、彼は言う

「カブラブ・ナモイを見つけよう」

期待は広がる 希望は瞬く

彼しかいない 彼こそ偉大

パベルナツソは立派なり

パベルナツソは優美なり

パベルナツソは素敵なり

かくしてパベルナツソはひとりになった

勇気を選んだばかりに

彼はひとり旅をする

旅はとても辛かった

道の険しさに疲れた

食事のまずさに吐いた

獣に襲われ傷を負った

夜の暗さが怖かった

苦難の嵐 勇気があるから彼は耐えた

痛みを堪えた 涙を堪えた 悲しみを堪えた

勇者は強さも得ていった

東の賢者に巡り会い、知恵ある言葉を授かった

西の遺跡に辿り着き、古代の記憶を焼きつけた

南の砂漠を渡りきり、わずかな恵みに感謝した
北の魔物をなぎ倒し、邪心と偽善に向き合った
東西南北駆け抜けて
パペルナツソの名は響く

パペルナツソは勇者なり
勇者はひとりで旅をする
後ろを向いても誰も来ず
前にはなにも見えてない
立派で優美で素敵な彼は
勇気を持って、ただ進む

パペルナツソは探し続ける
無限で不明な浪漫をずっと
それでもあるさ カブラブ・ナモイ
あるはずだとは食い下がる
なぜにわかるか カブラブ・ナモイ
信じるココロが揺らぎ出す
カブラブ・ナモイ カブラブ・ナモイ
飽きもせず呼ばれるその名にうんざり
カブラブ・ナモイ カブラブ・ナモイ
なにもわからず生きるヒトにげんなり

カブラブ・ナモイは真実か
もはや疑念は広がった
勇者も掴めぬ カブラブ・ナモイ
勇気がなにをしてくれよう
諦めようかな カブラブ・ナモイ
ココロの折れる準備は完了

まだ旅は続くのか
パペルナツソは半信半疑
パペルナツソは右往左往
パペルナツソは四苦八苦
そもそも勇者とはなんぞや
暗い思考は歯止めを知らず
運命とやらにも溜息をつく
しかしながらにパペルナツソ
きっぱりとは切り捨てられぬ
なぜなら彼は偉大なのだから
なんとなくでも旅は終わらない
どことなくなら手がかりがある
そうでなくても逃げたくはない
なんというべきか芯に触る気持ち
なんとも言えない回り回る雰囲気
なんとでもなると開き直る生命力

つまり答えは出ているわけであるし
そして未来は不透明であるわけだし
だから存在も理由もどうでもいいし

ここにきて、パペルナツソは吹っ切れた
パペルナツソは勇氣凜凜
パペルナツソは意気揚揚
パペルナツソは自信満満
「カブラブ・ナモイを見つけよう」
そうとも、ただそれだけだ
突っ走るのはパペルナツソ
待ち構えるはカブラブ・ナモイ
本当にあるのか カブラブ・ナモイ
あるかどうかはわからない
なぜにわからぬ カブラブ・ナモイ
信じるココロが踊っている
カブラブ・ナモイ カブラブ・ナモイ
飽きもせず呼ばれるその名は消えない
カブラブ・ナモイ カブラブ・ナモイ
なにもわからず生きるヒトは尽きない
それでいい それがいい それもいい

おわり